

令和6年度 調布市立第一小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
◎思いやりの心をもち なかよく協力する ○よく考え自分から進んでやりぬく ○じょうぶなからだで明るい生活をする	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「子どもたち一人ひとりを大切にする学校」 ・安全安心な学校生活の確立 ・学ぶ楽しさを感じる授業づくり ・豊かな心の醸成 ・健康の保持、体力の増進	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	学校の主役は子どもたちであり、一人ひとりの子どもが大切にされ、その中で、豊かな心、確かな学力、健やかな身体がはぐくまれてゆかなければならない。子どもたちが、自分大切にされ、尊重されていると感じ、安心して生活して学ぶことができる学校を目指す。 そのために教職員は、子どもたち一人ひとりの幸せを願い、子どもたちを理解することに努めるとともに、その達成のための手立てを考え、厳しくも思いやりのある職能集団として協力・協働していく。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	日常生活における、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。自分の考えを自分の言葉や文で伝えられるように、語彙力や表現力を養う。	- 日記や作文指導において、常に文の構成を意識して書けるように指導する。そのために、「いつ・だれが・どこで・なにをした」や、「始め・中・終わり」など、表やメモを活用して内容を自分で整理して書けるようにする。 - スピーチやディベートにおいて、話の内容が明確になるように、構成を考えさせる。ポイントとして、事柄の順序、理由や事例などを考えさせる。また、事実と感想を区別させることを意識付ける。
社会	- 各単元における学習問題を資料等で調べ、社会的な見方や考え方を働かせ、社会的事象の特色を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、社会生活に生かそうとする態度を養う。 - 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、把握した課題の解決に向け社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことを適切に表現する力を養う。	- 社会への関わり方を選択・判断し表現できるよう、社会的事象から課題を見だし、資料や調査した情報から予想できることを話し合ったり調べたりする活動を、発達段階に応じて取り入れる。 - 資料掲示や発表、児童同士の意見交換等で、ICT 端末を効果的に活用する。 - 各単元において、多面的・多角的考察、課題解決の構想、論理的な説明、社会参加を視野に入れた議論を目指した社会的な見方・考え方をどのように身に付けさせていくかを、問題解決的な学習過程を意識し、単元構成を行う。
算数	- 基礎的・基本的な概念や性質の理解を図り、適切に処理する技能を身に付ける。 - 事象を捉え、筋道を立てて考え、簡潔、明瞭、的確に表す力を養う。 - 数学的活動の良さに気付き、よりよく解決しようとする態度を育てる。	- 各単元の身に付けさせたい力に沿った問題を設定し、おはじきや図形等を操作活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 - 事象を数理的に捉え、問題を見だし、既習の知識・技能を活用し、問題を自立的、協働的に解決していく活動を通して、数学的な見方・考え方を身に付けさせられるようにしていく。指導の際には、解決過程を多様な表現方法(言葉、式、図、表、グラフ、数直線等)を用いて表現させる。また、その解決方法を振り返ったり、他者と交流したりする活動を通して、基礎的・基本的な概念の形成や体系化を図っていく。 - 習熟度に応じて、生活経験からイメージしやすい課題や、抽象的な課題、逆思考を要する課題などを用意し、考えることの面白さを味わえるようにする。
理科	全ての単元において、理科の見方・考え方を働かせた学習を計画的に展開し、主体的、対話的で、深い学びを実現する。育てていく資質・能力は、自然事象への知識・概念、問題を見いだす力、予想・仮説の発想、解決策の発想、結果を解釈し結論を導く力とする。また、学びに向かう力として、自然や人間への親しみや尊重、科学の面白さへの気付き、妥当性を検討する態度、学んだことを日常生活に生かす態度の育成を目指す。	- 自然事象を量的・関係的な視点、時間的・空間的な視点、質的・実体的な視点、共通性と多様性の視点で捉えられるよう、発達段階に応じた系統的指導を行う。また、考える力を育むために、条件制御、推論、比較、関係付け、規則性、因果関係、順序性、連続性、多面性、数値化など、適切な判断基準を設定する。そのために、各単元のどの部分でどのような見方・考え方を身に付けさせていくのかを単元全体を見通して計画する。 - 自らの予想や仮説を検討し、見直したり振り返ったりしながら、より妥当な考え方に改善できるようにする。 - 器具の操作の意味を捉え、適切な扱いができるようにする。

生活	・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。	・身近な自然や身の回りにあるものを使って遊んだり、遊ぶための道具を工夫して作ったりすることを通して、その面白さや不思議さに付き、伝えようとする活動を行う。身の回りの植物や生き物に関心を持ち、それに関連した本や図鑑を探したり、進んで読んだりする活動を行う。 ・活動や体験での気付きや考えを言葉や絵などの様々な方法で表現していくようにする。
音楽	・他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する力を養う。	・気付いたことや感じ取ったことなどについて互いに交流し、音楽の構造について共有したり、自分の考えを深めたりする。 ・表現領域においては、知識や技能を得たり生かしたりしながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を持ち、実際に歌ったり楽器を演奏したり音楽を作ったりする過程の充実を図る。鑑賞領域においては、知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、言葉や体の動きで表しながら交流するなどして、音楽を味わって聴く過程の充実を図る。
図画工作	・「自分らしい表現」を追求し、どのように表現するか、試行錯誤しながら想像力を働かせ、自分の思いや表現を深めることができる。 ・自分と友達の作品を大切に、それぞれのよさを互いに認め合うことで、表現する喜びを分かち合い、高め合うことができる。 ・安全に気を付け、材料や道具・用具を適切に扱いながら制作し「自分らしい表現」を深めようとする。	・児童が自分の思いを持ち、進んで造形活動に取り組むことができるよう、導入の工夫をする。ユニバーサルデザインを意識した板書、分かりやすい実演・表示、動線の取りやすい場の設定、材料の配置などを題材ごとに設定する。 ・ほめて励ましながら制作を進める。児童の新しい発見やよい表現をその場で捉えて紹介したり、互いに鑑賞し合ったりする場を設定し、「友達のよい表現」を発表し合う。作品の展示や鑑賞の機会を多く設定することで、楽しく見合う場面を多くつくる。 ・危ない道具も安全に便利に活用できる技能を身に付けさせる。使い方の手順や正しい持ち方などはワークシートを活用し、繰り返し確認しながら試すことができるようにする。
家庭	・家族や家庭、衣食住、消費や環境など、日常生活についての基本的な知識と技能を身に付ける。 ・日常生活の中から課題を設定し、実践を通して進んで課題を解決する力を養う。 ・家族や地域との関わりを考え、生活をよりよくしようと工夫する態度を養う。	・児童が主体的に学習した内容を実生活で反映できるよう、裁縫や調理など実践的な活動を重視していく。また、ICTを活用した授業を展開し、知識・技能の習得の定着を図る。 ・自己の生活を見つめさせ、自分の課題を設定させる。解決方法を発表したり、実践したことを振り返ったりできるよう、学習形態を工夫していく。 ・身に付けた機能や知識を生活に生かせる場面を設け、実践につなげる力を引き出していくとともに、さらに課題を見つけられる場を設定する。
体育	・運動の特性に応じた各種の運動の行い方を理解し、基本的な技能を身に付ける。 ・自己の課題を見付け、その解決に向けて自ら考え、工夫する。 ・運動の日常化を図り、運動に親しむ態度を養う。また、運動の楽しさを味わわせることで積極的に運動する意欲をもたせ、体力の向上を図る。 ・身近な生活における安全への基礎的な知識、健康な生活を続けていくために必要な課題を解決する力を身に付ける。	・授業中に活用しやすくするための学習カードを整理し、校内での活用を促進する。 ・運動に関心をもたせたり、児童の能力に応じた技能を身に付けさせたりするために、運動の場や用具を工夫する。 ・動画や掲示物を活用して、運動の動きを視覚的にイメージさせることにより、自己や友達の課題を発見させ、学習方法を工夫させる。 ・正しい集団行動や整列の仕方を指導し、安全に配慮した適切な方法で運動させる。 ・用具や器具の安全な使用の仕方の指導を行う。
外国語	・外国語の音声や文字などについて理解するとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しむ。自分の気持ちや考えなどを伝え合うことができる基本的な力を養う。主体的に、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	・デジタル教科書やノート、具体物を使って、外国語の歌や日常生活の場面で使われる会話から、外国語を使うことに必然性を感じられる授業を行う。 ・AET とのやり取り、ペアや数人でのやり取りや発表を通して、外国語を使ったコミュニケーションを図る。 ・校内に外国語の掲示物を貼り、日常的に慣れ親しむ機会を設ける。
道徳科	・物事を多面的・多角的に考え、人としてよりよく生きようとする。 ・自分だけでなく、周りの人も大切にすることができる。 ・誰に対しても、相手の立場を想像して思いやりのある行動ができる。	・児童が友達の意見を参考にして、自分の考えや意見を深められるような言語活動の充実と工夫を図る。 ・児童が自己を見つめ、生き方についての考えを深められるように、内容項目に対する振り返りの時間を十分に確保する。 ・「自分ならどうするか」など、教材に対して自分事として考えられるような発問の工夫をする。
外国語活動	・外国語の音声や文字などに慣れ親しむ。 ・自分の気持ちや考えなどを伝え合おうとする態度を養う。	・デジタル教科書や AET とのやり取りから、外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ機会を増やす。また、児童同士、教師と児童などでのやり取りを多く行う。 ・校内に外国語の掲示物を貼り、日常的に慣れ親しむ機会を設ける。

